

農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

1 いもち病

(1) 収穫期の巡回調査では、穂いもちの発生圃場率は平年より低かった（図1）。

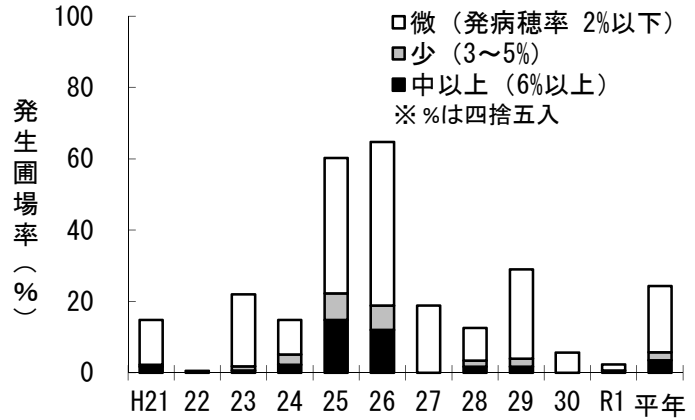


図1 穂いもち発生圃場率の年次推移 (収穫期)

2 紋枯病 (疑似紋枯病を含む)

(1) 収穫期の巡回調査における発生圃場率、程度ともにほぼ平年並であった（図2）。

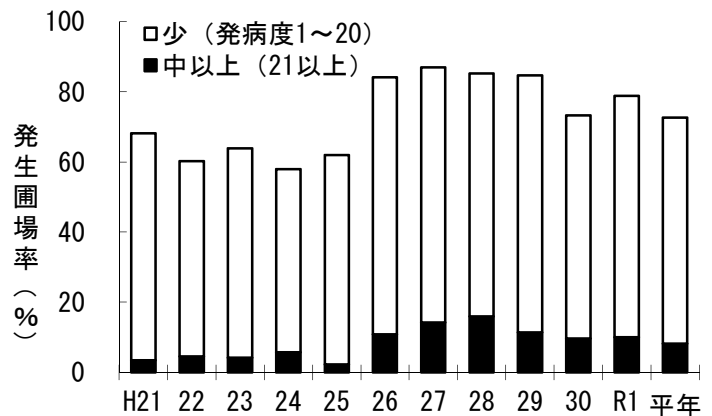


図2 紋枯病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

3 稲こうじ病

(1) 収穫期の巡回調査における稲こうじ病の発生圃場率は、平年より低かった（図3）。

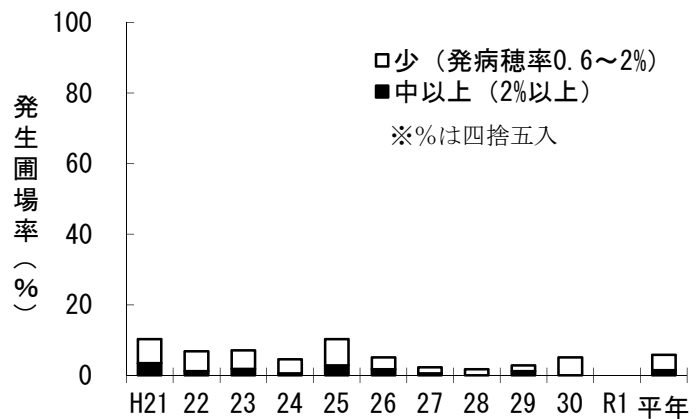


図3 稲こうじ病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

4 斑点米カメムシ類

(1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率・程度ともに平年より低かった (図4)。

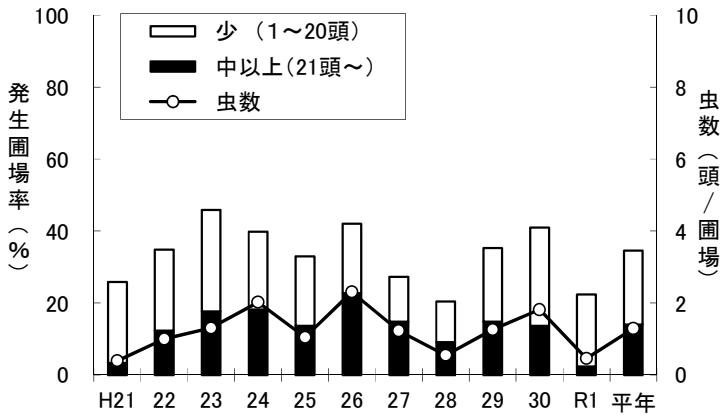


図4 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移 (収穫期、本田すくいとり、往復20回振)

5 ウンカ類

(1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、セジロウンカ、ヒメトビウンカの発生圃場率はともに平年並であった (図5)。

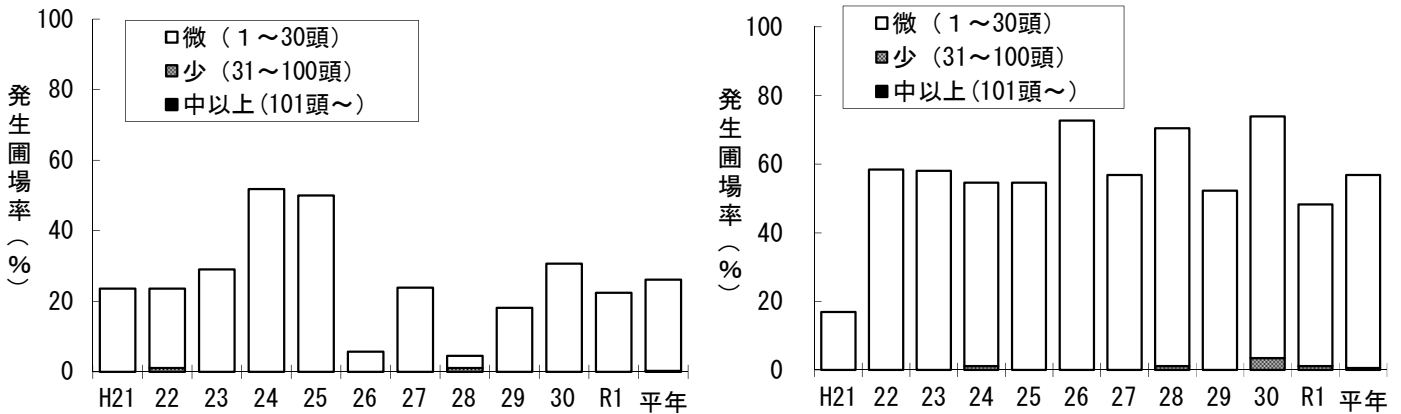


図5 ウンカ類の発生圃場率の年次推移 (左:セジロウンカ、右:ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振)

6 ツマグロヨコバイ

(1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、沿岸部の1圃場で確認された。

7 イネキモグリバエ (イネカラバエ)

(1) 収穫期の巡回調査では、一部の地域で被害穂が確認され、発生圃場率は平年より高かった (図6)。

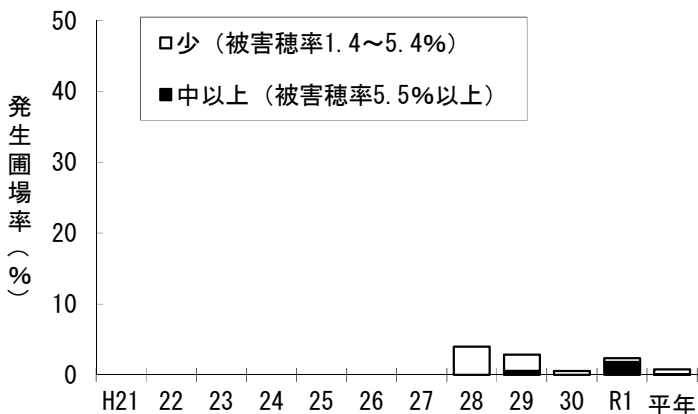


図6 イネキモグリバエによる被害穂の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

1 斑点落葉病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじは平年より高く、王林は平年並に高かった(図1)。

(2) 発生度は、ふじ、王林ともにほぼ平年並に推移した(図2)。

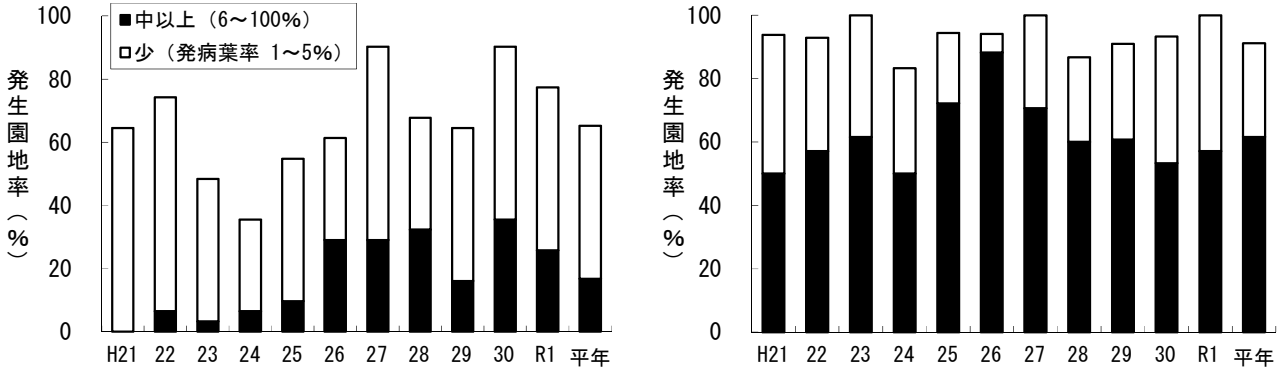


図1 斑点落葉病の発生園地率の推移 (左図：ふじ、右図：王林、9月後半、徒長枝全葉)

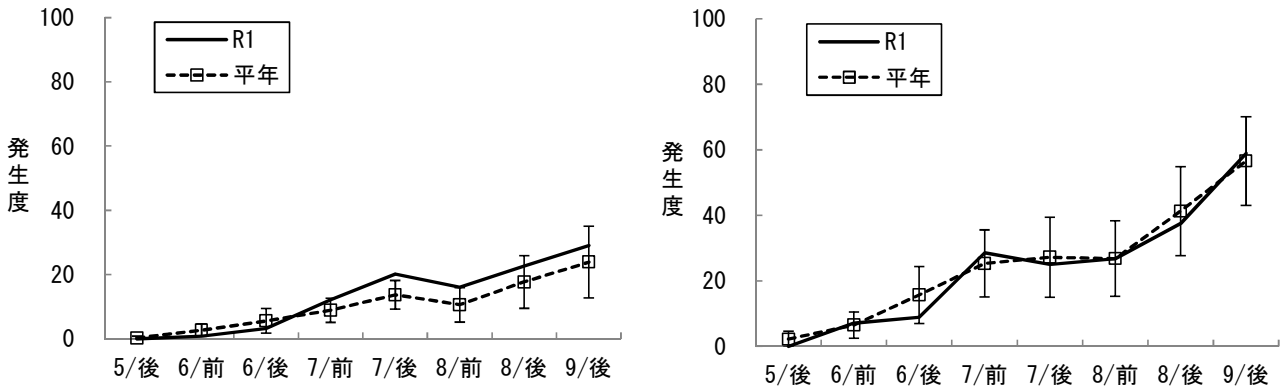


図2 斑点落葉病の時期別発生度の推移 (左図 ふじ、右図 王林)

※発生度：(甚×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

2 褐斑病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高かった(図3)。

(2) 発生度の推移は、9月前半まで前年より高かったが、9月後半は前年並となった(図4)。

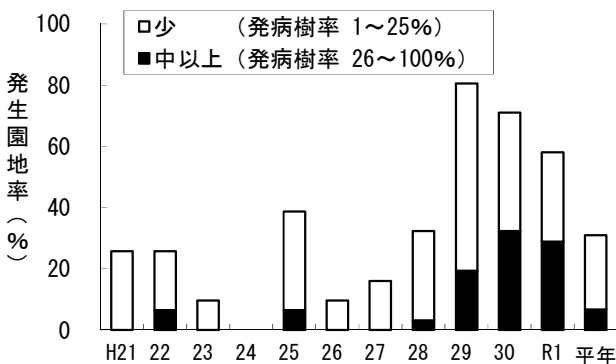


図3 褐斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

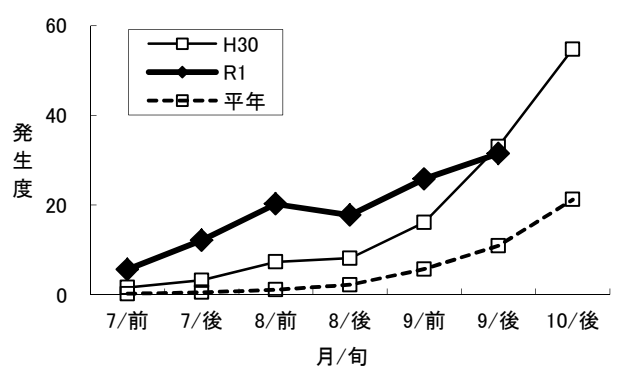


図4 褐斑病の時期別発生度の推移

※発生度：(甚×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

3 黒星病

- (1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、葉、果実の発病ともに平年より高かった (図5)。
- (2) 発生程度が高い園地は、9月後半の巡回調査ではみられなかった (図5)。

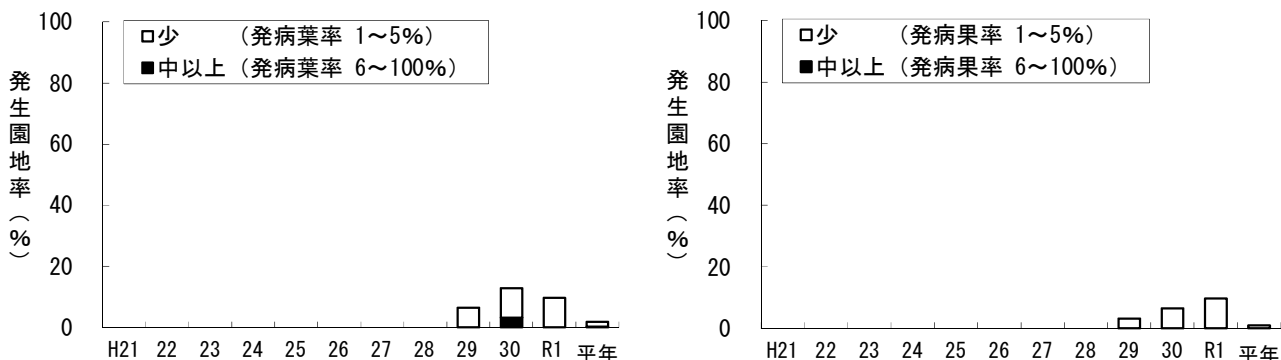


図5 黒星病の発生園地率の推移 (左図：徒長枝葉、右図：果実、9月後半)

4 果実病害

- (1) 輪紋病の9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年よりやや高かった (図6)。
- (2) 炭疽病の9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった (図7)。
- (3) すず点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年並であった (図8)。
- (4) すず斑病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった (図9)。
- (5) 黒点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年よりやや高かった (図10)。

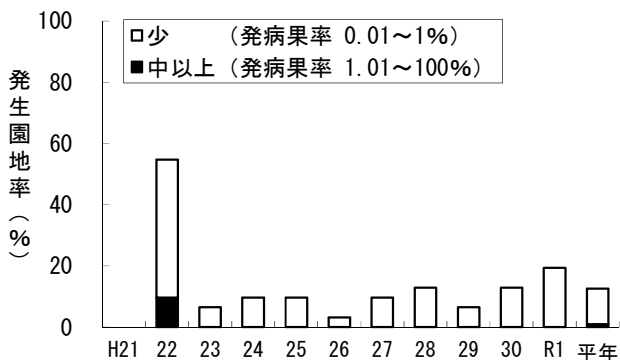


図6 輪紋病の発生園地率の推移 (9月後半)

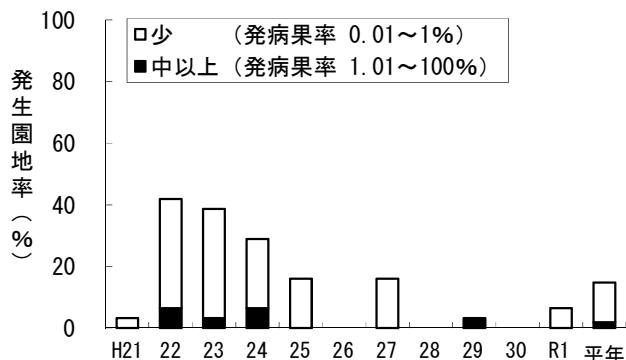


図7 炭疽病の発生園地率の推移 (9月後半)

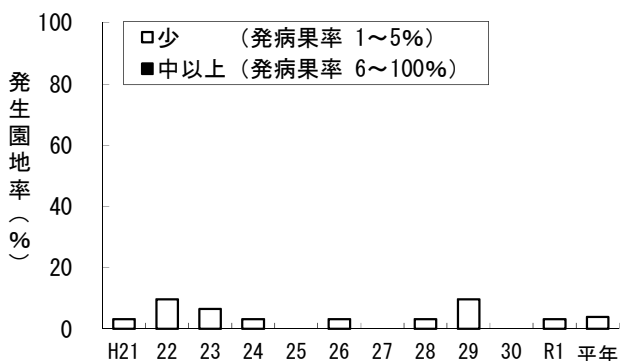


図8 すず点病の発生園地率の推移 (9月後半)

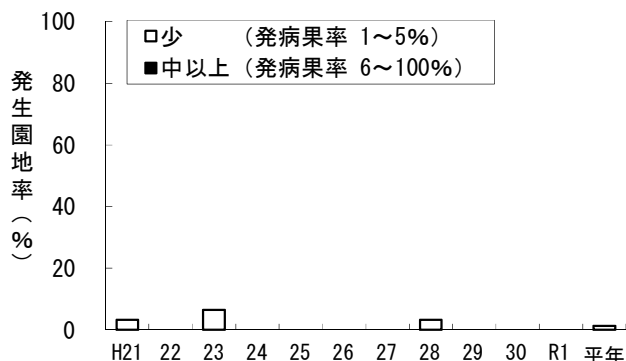


図9 すず斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

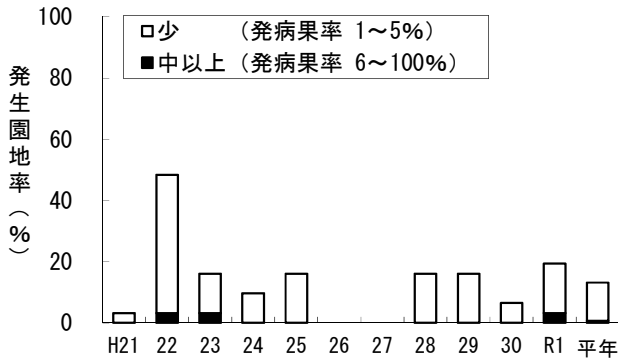


図10 黒点病の発生園地率の推移（9月後半）

5 ハダニ類

(1) 9月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、ナミハダニ、リンゴハダニともに平年並であった(図11)。

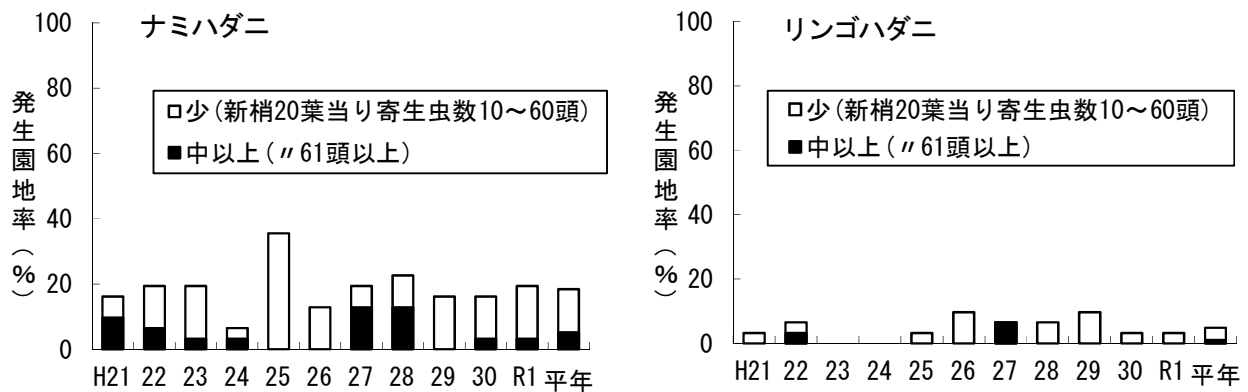


図11 ハダニ類の発生園地率の年次推移（9月後半、目通り）
（10頭未満/新梢20葉（10樹）は発生無しの扱い）

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図12)。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図13)。

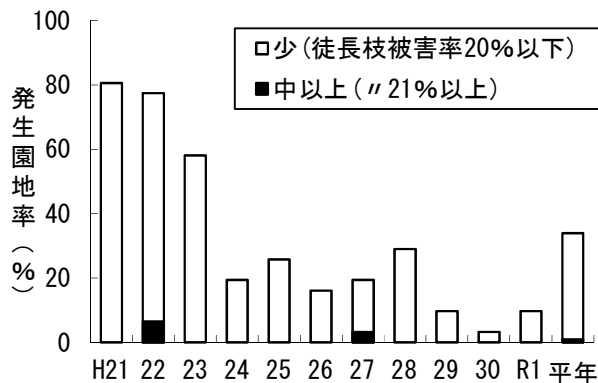


図12 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（9月後半）

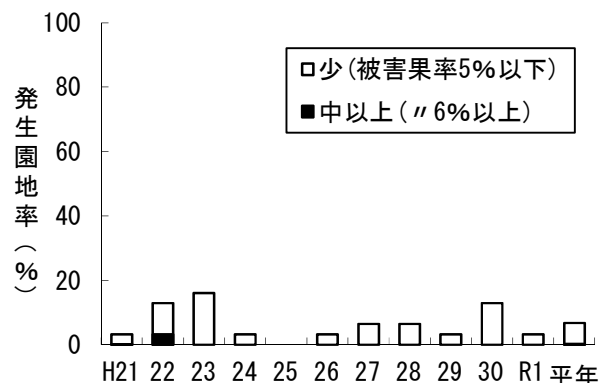


図13 シンクイムシ類による被害果発生園地率の年次推移（9月後半）

8 果樹カメムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生園地率は、平年より低かった(図14)。

(2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、両地点とも7月下旬にピークが見られ、盛岡市川目では9月上旬

に再び誘殺数が増え年間では平年より多く、北上市更木では9月の誘殺はわずかで年間では平年並であった(図15)。

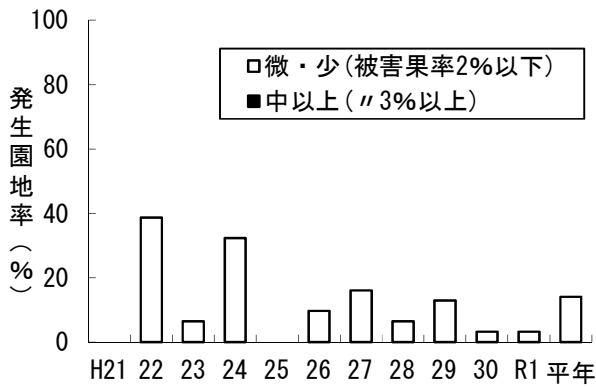


図14 果樹カメムシ類による被害果発生園地率の年次推移(9月後半)

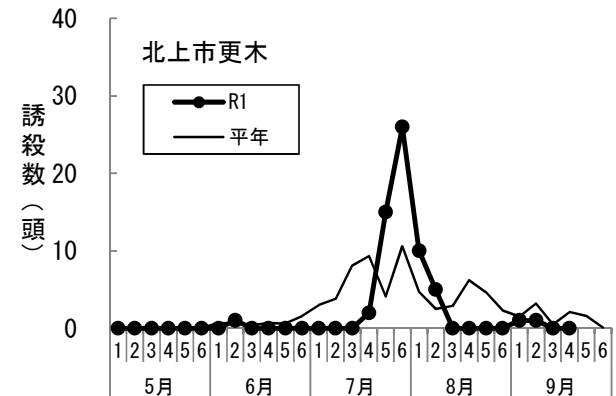
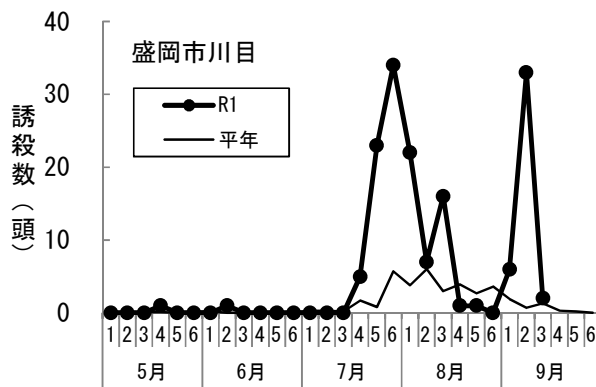


図15 クサガカメムシの予察灯への誘殺状況(左:盛岡市川目、右:北上市更木)

(3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、基準圃場および現地とも5月下旬にピークが見られており、年間ではいずれの地点も平年より少なかった(図16)。

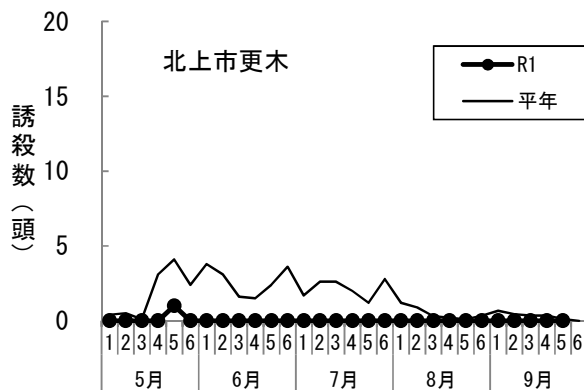
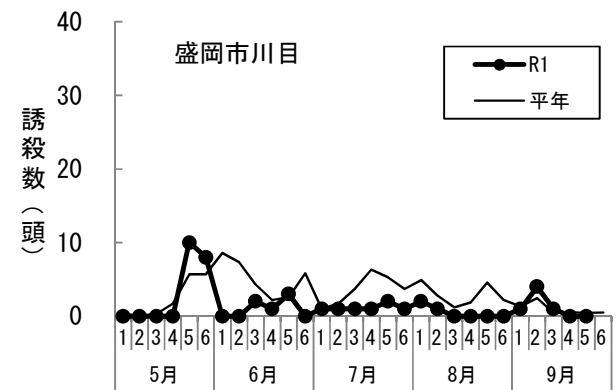
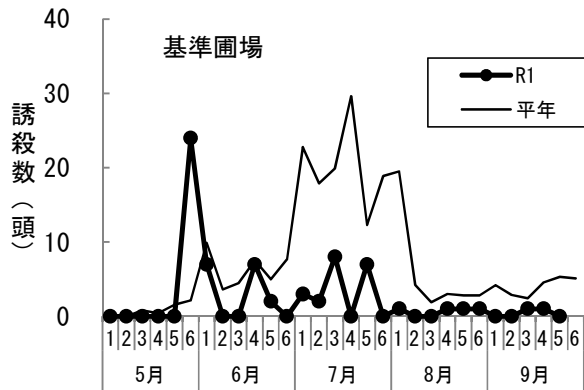


図16 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

(左上:基準圃場(北上市成田、無防除)、右上:盛岡市川目、左下:北上市更木)

農作物病害虫発生現況情報（9月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かったが、発生程度は低かった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かったが、発生程度は低かった（図2）。

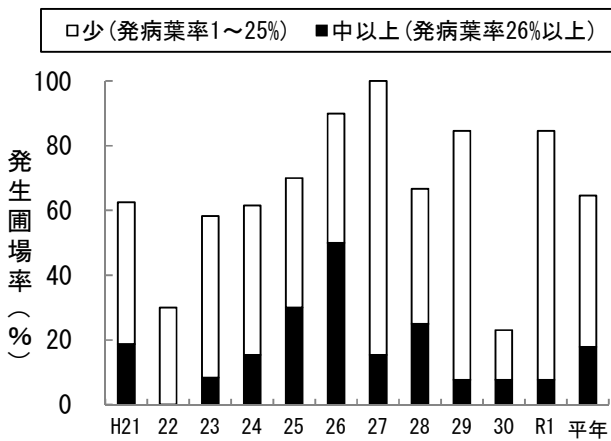


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

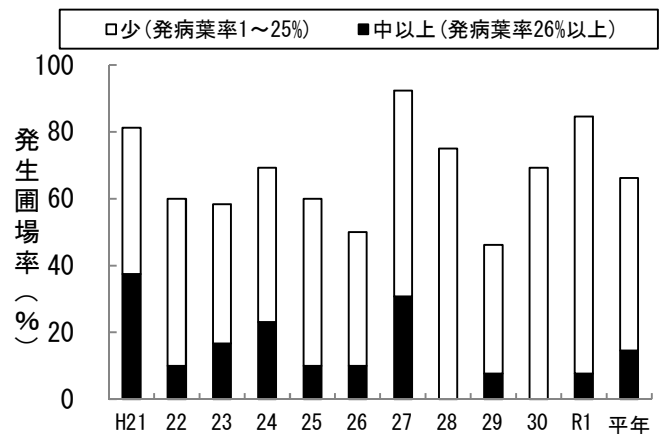


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

3 褐斑病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図3）。

4 炭疽病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率、発生程度とも平年よりやや高かった（図4）。

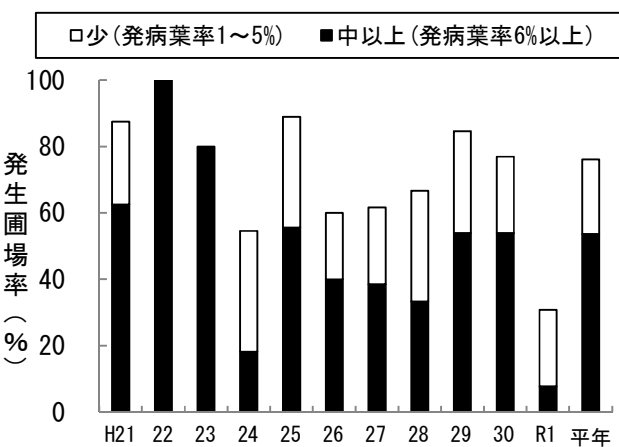


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

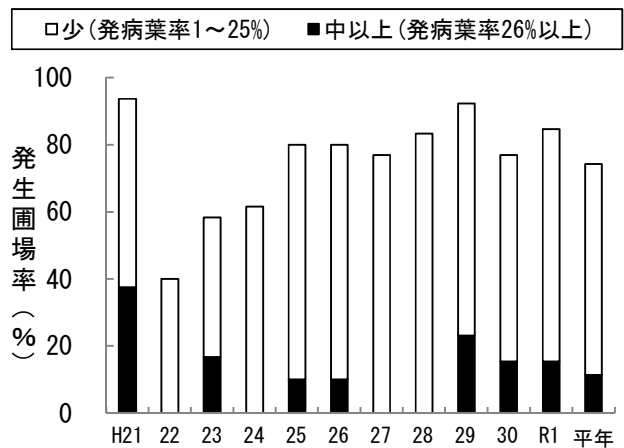


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

5 斑点細菌病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図5)。

6 黒星病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった(図6)。

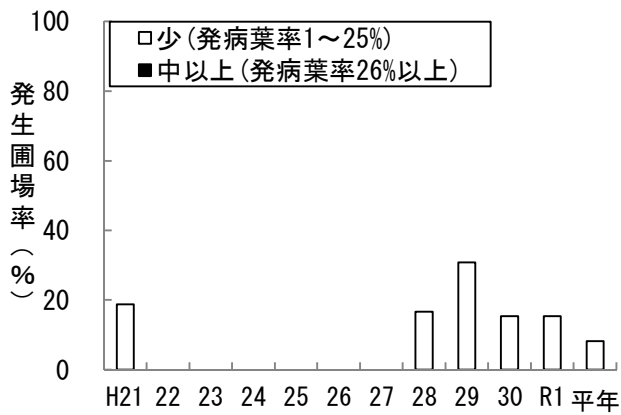


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

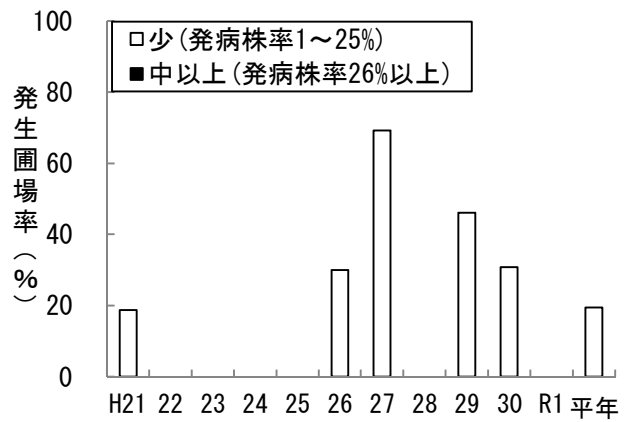


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

7 ワタアブラムシ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かったが、発生程度の高い圃場はみられなかった(図7)。

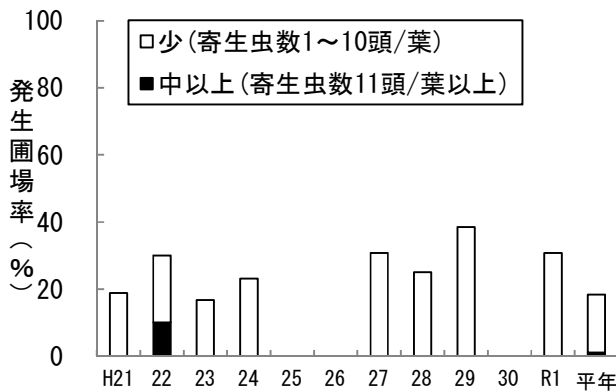


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

農作物病害虫発生現況情報（9月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月は平年並に推移した（図1）。
- (2) 9月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年より高かったが、発生程度が高い圃場は見られなかった（図2）。

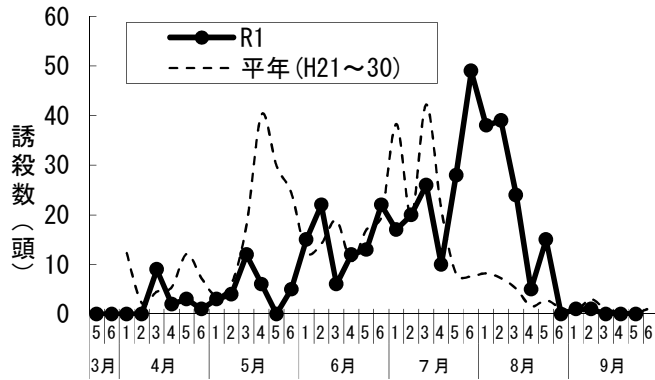


図1 岩手町におけるコナガのフェロモントラップへの誘殺状況

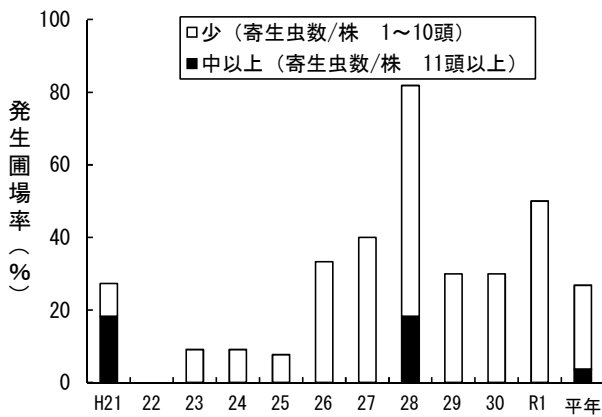


図2 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（9月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 9月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年よりもやや高かった（図3）。

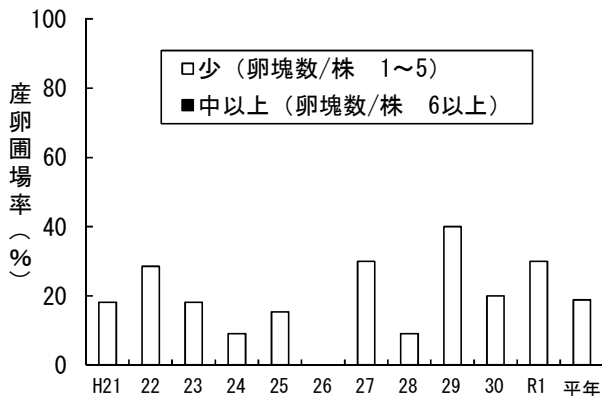


図3 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（9月） ねぎ編

1 さび病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であり、発生程度は平年より低かった（図1）。

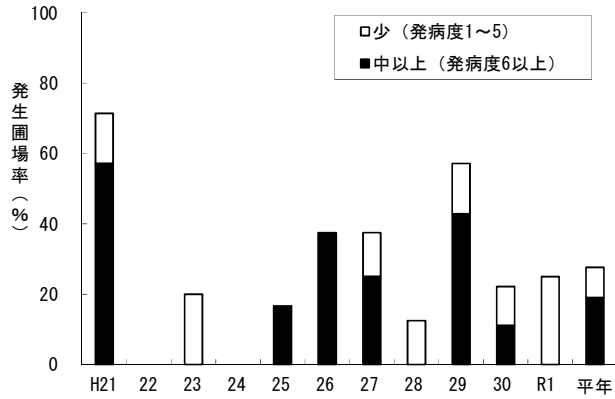


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

2 べと病

(1) 9月の巡回調査では、発生は見られなかった（図2、3）。

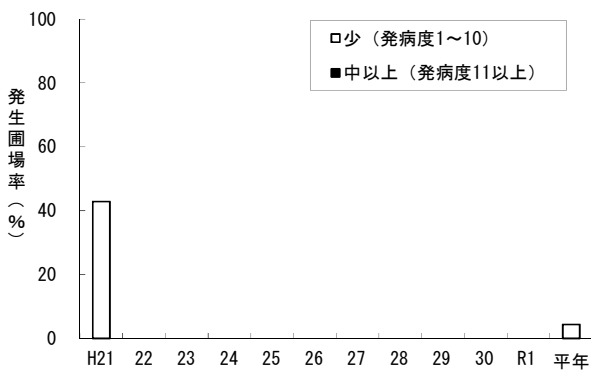


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

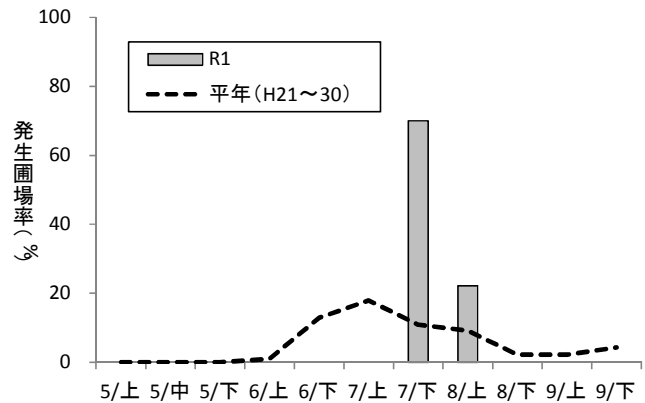


図3 べと病の発生圃場率の時期別推移

3 黒斑病、葉枯病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率、発生程度とも平年並であった（図4）。

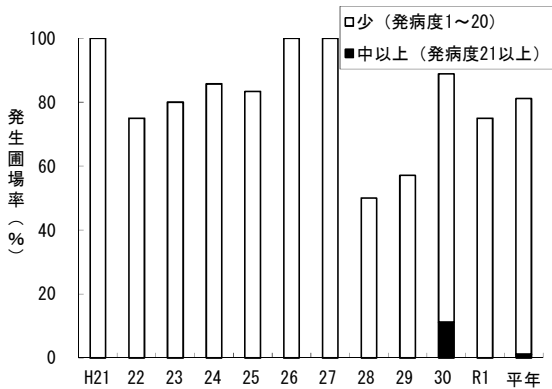


図4 黒斑病、葉枯病の発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

4 ネギコガ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であり、発生程度は平年より低かった(図5)。

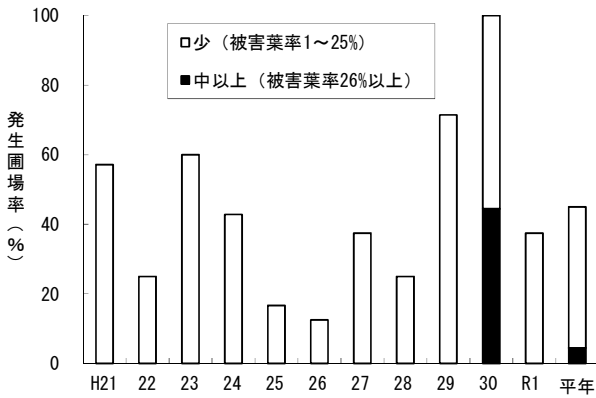


図5 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率、発生程度とも平年より高かった(図6)。

(2) 6月以降、被害程度は平年よりも高く推移した(図7)。

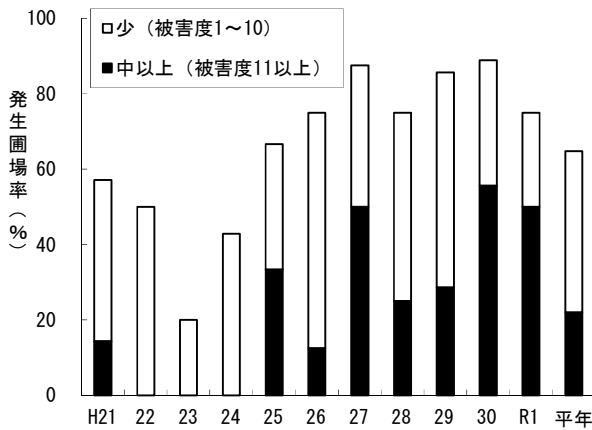


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

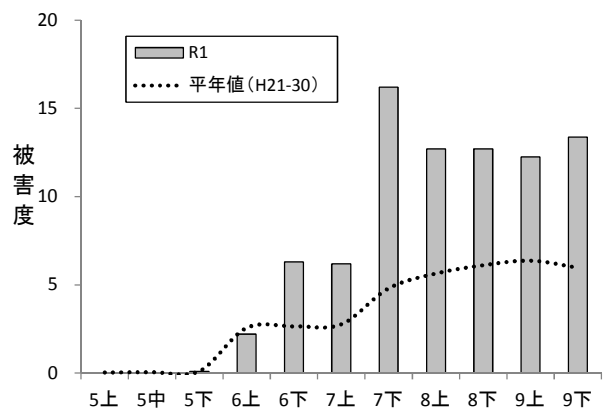


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

6 ネギアザミウマ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率、発生程度とも平年並であった(図8)。

(2) 9月の被害度は、上旬では平年並であり、下旬では平年より低かった(図9)。

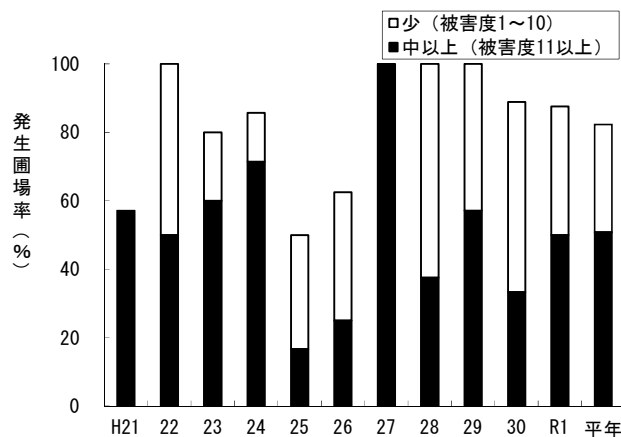


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

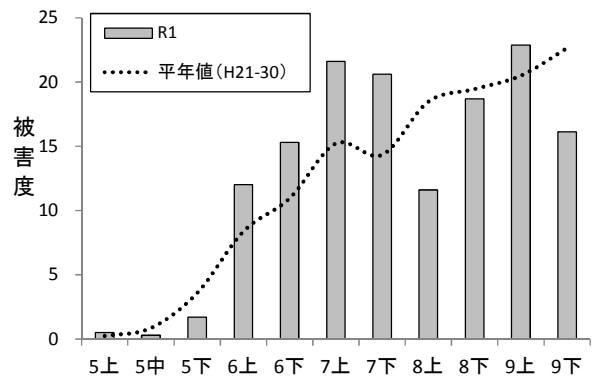


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（9月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図1左）。

(2) 採花部での発生圃場率は平年並であったが、発生程度の高い圃場はみられなかった（図1右）。

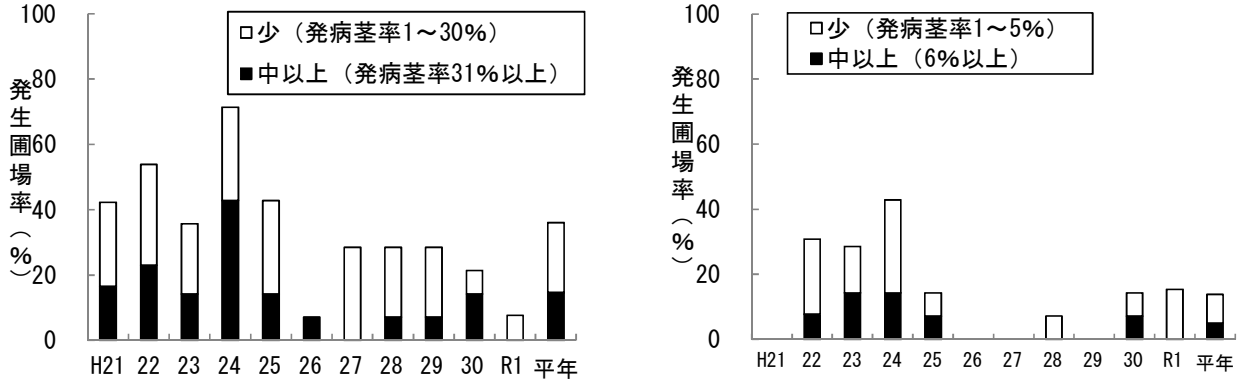


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、9月中旬）

2 褐斑病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生はみられなかった（図2）。

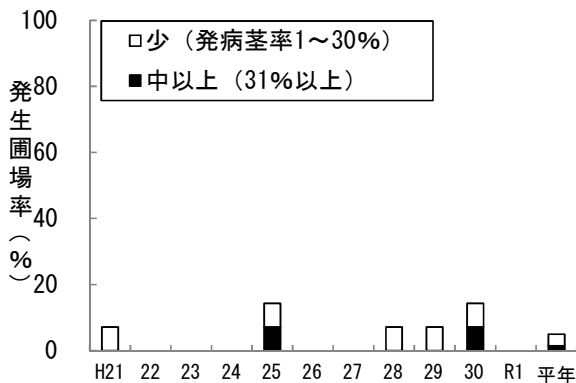


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

3 花腐菌核病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高かった（図3）。

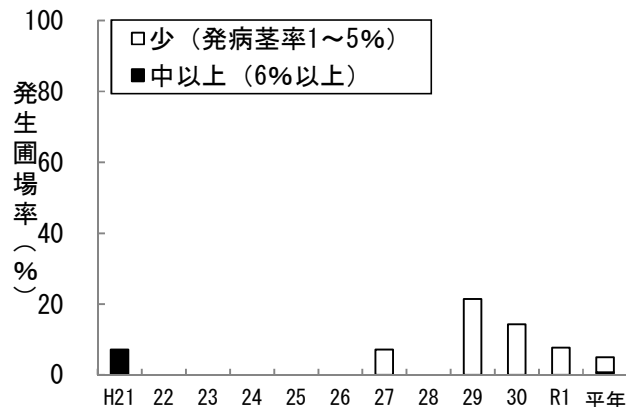


図3 花腐菌核病の発生圃場率の年次推移(9月中旬)

4 ハダニ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かったが、寄生葉率は一部で程度の高い圃場もみられた(図4)。

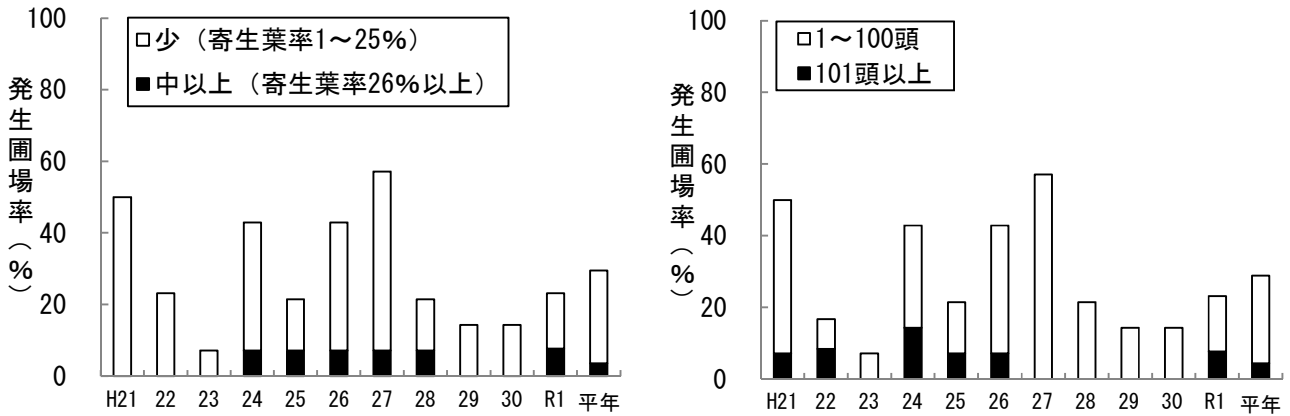


図4 ハダニ類の発生圃場率の年次推移(左:寄生葉率、右:寄生虫数/80葉中、9月中旬)

5 リンドウホソハマキ

(1) 9月中旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率、生長部および茎部の被害発生圃場率ともに平年より低かった(図5)。

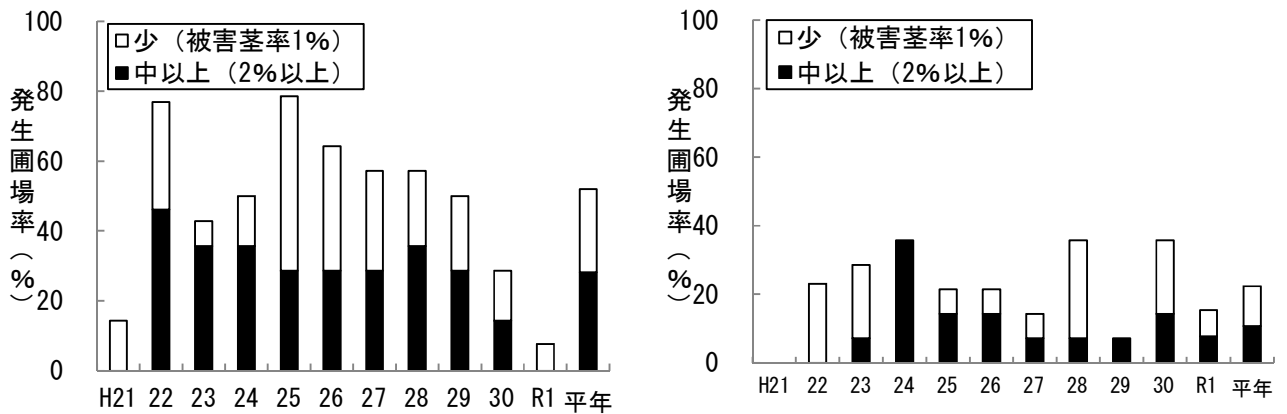


図5 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移(左:潜葉痕、右:生長部・茎部、9月中旬)

6 アザミウマ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図6)。

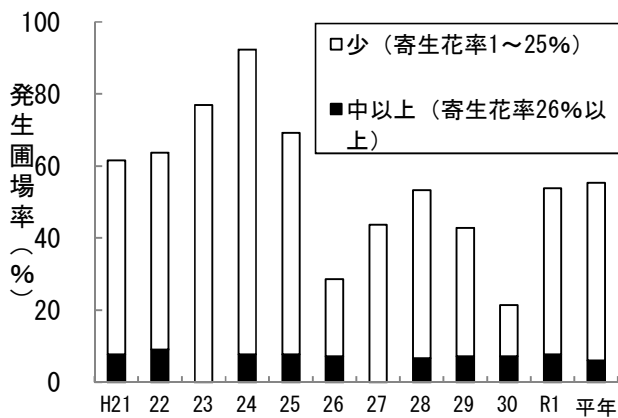


図6 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移(9月中旬)

7 アブラムシ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。